

早いもので、平成20年8月末豪雨から今年で14年が経ちましたが、強い雨の日には当時を思い出します。当時市内では、1時間に146.5mmもの猛烈な雨が降り、河川氾濫や橋の崩落、家屋の倒壊など2,500棟を超える住宅被害もあり、また、尊い命も奪われてしまいました。

近年の災害では、避難に時間がかかってしまう高齢のかたなどが犠牲になってしまう割合が非常に高い状況であり、災害時に支援を求めるかたの名簿の作成は進んでいるものの、避難の実効性の確保が課題となっています。こうした状況もあり、市では、内閣府のモデル事業として、今年度から避難に支援を求める高齢のかたなどに、そのかた一人ひとりに合った「個別の避難計画」の作成を地域住民や福祉関係者などと共に始めています。

災害時に頼りになるのは“おとなりさん”です。支援が必要なかたの個別避難計画の作成を通じて地域力を高め、大切な命を守り災害を乗り越えていけるように、地域で行動できる備えをしていきましょう！



岡崎市長
中根 康浩